

# 心の原風景 —我が母校—

題字 渡邊剛忠

佐渡市教育長 渡邊 剛忠

佐渡市が合併して5年余りが経過しました。以前は旧市町村ごとの広報紙で学校の取組みが紹介されていま

「市報さど」で、今回から学校の取組みを紹介するコーナーを設けました。各学校では「佐渡市学校教育基本構想」に基づき、知・徳・体の調和を重視し、特色ある教育活動を推進しています。多くの市民の皆さま方にもご支援

お礼申し上げます。さて、タイトル「心の原風景」に寄せる私の思いを述べてみたいと思います。辞書では「原風景」心象風景のなかで原体験を想起させるイメージ」とあり、「原体験」人の思想形成に大きな影響を及ぼす幼少時の体験」と記述されています。

佐渡で生まれ育った多くの先輩の皆さんは、幼少時の体験や経験が、それぞれの人生に大きくかかわっています。

今、佐渡市の学校では基本構想の柱の一つである「郷土を愛し、夢と誇りを

もつ教育の充実」を目指し、佐渡固有の自然、歴史、文化を学ぶ教育（佐渡学）に取り組んでいます。

過疎化が進む中、佐渡の将来を担う人材の育成が重要な課題です。これからも佐渡の内からも外からも故郷に貢献できる人を育てなければなりません。

そのためには、子どもたち一人ひとりの「心」に、佐渡で学んだ「原風景」を深く浸透させることが大切です。

各学校でのさまざまな取組みを、広く市民の皆さまにも知っていただくため、毎月一校の紹介を連載していく予定です。

「地讀地獎」という言葉を耳にし

読者の皆さまから佐渡の子どもの私たちの賞讃、推奨のお国自慢をしていただければ幸いです。



## 姉妹都市を たずねて

入間万燈まつり  
(埼玉県・入間市)  
国分寺まつり  
(東京都・国分寺市)

第31回入間万燈まつり

10月24日・25日



佐渡全島に部員を有する「佐渡商工会青年部協議会」が中心となつて「入間万燈まつり佐渡物産展実行委員会」を組織し、総勢約40名が物産展に参加しました。毎年人気を博している「おけさ柿」の販売コーナーには、物産展開始時間前に約1200人もの行列ができたほか、祭り2日目の物産展終了時間前には持ち込んだすべての品が完

は初めてとなる「前浜流鬼太鼓」を披露して入間市民の注目を集めました。また、「なぎさ会」はけやき通りを舞台に開催された「おけさ流し」で、地元・入間市の民謡11団体(243人)と共演しました。

第26回国分寺まつり

11月1日

佐渡物産展では、毎年恒例となっている活魚コーナーに長蛇の列ができて、佐渡から運ばれた活きのよいヒラメ、タコ、サザエ、アワビなどが飛ぶように売られていました。ここでは、毎年8月に遠泳交流のため佐渡を訪れている「国分寺市水泳協会」約20名が、交流の一環として物産販売に協力してくださいました。また、芸能では「杉野浦獅子舞保存会」が国分寺市より招請され、佐渡に古くから伝わる小獅子舞を披露しました。会場には、国分寺市民だけでなく、郷土の芸能を見に訪れた



首都圏在住の佐渡出身者の姿も多くあり、舞台公演が終了すると観客席からはお客様の拍手が送られていました。